

かわかみ ミネルバ通信

佐賀県教育センター
平成8年7月14日

《巻頭言》

魅力ある研修の場をめざして

佐賀県教育センター 所長 江頭賢藏



初夏を迎えた六月の教育センターは、新緑の青葉が梢を豊かに覆ってる。

可憐な5枚の花びらを纏った山ツツジやサツキが研修に訪れる先生方を静かに見守ってくれる。研修の場として、素晴らしい環境である。

平成4年度から段階的に実施されてきた現行の学習指導要領は、社会の急激な変化や技術革新による経済発展から生じた「もの社会」に対応する心の教育の在り方に重点が置かれている。

従来の教育は、ややもすれば形式的平等の理念に立ち、画一的、均一的教育を重視した「そろえる教育」であったといえよう。この教育方法は、国力を高め先進諸国を追い越すためには、効率的かつ合理的方法であった。わが国の経済発展が先人の努力と教育の成果によることは誰もが認めるところである。

しかし、成熟化社会が到来し、高校への進学率がほぼ頂点に達した現在、能力・適性・興味・関心など多様な児童生徒の教育にいかに対応するか、新たな課題が生じている。

今日、日本の教育は個性化、自由化の時代に入っているとされ柔軟化の方向にある。

これからの教育は、自ら考え、判断し、行動できる力の育成を重視した「新学力観」へと、大きく転換していくことが要求されており、この課題達成のキーワードは「個性」であると思う。

学校教育は今、変革期にある。非行、いじめ、不登校の克服など個への関わりをより必要とする緊急課題も多い。これらの課題解決には、従来の教育の在り方から個に応じた「サービスとしての教育」の在り方も求められており、教職員の意識改革や学校の在り方を見直す必要性が生じていると言えよう。

このような観点も考慮に入れ、本教育センターでは、研修の整理・統合と体系的整備を中心に見直しを図り、「基本研修」や「分散型研修」など実施可能なものから、新しい研修事業として取り入れている。研修内容についても、新学力観の趣旨を生かし、各学校ですぐ役立つ講座を開設するなど、その改善に力を注いでいる。

また、充実した施設・設備と情報発信の機能を有する情報システムに係る関係講座など、時代に対応した研修事業をさらに推進し、積極的に研修していただける「魅力ある教育センター」を目指して努力していきたい。

子供の側に立った楽しい音楽学習

所員 石田 正 紹



1 はじめに

今、子供一人一人が夢と希望を持ち、心豊かに生きていくために、生涯にわたって学び続ける力を身につけていく学習の在り方が求められています。

音楽科では、子供一人一人の思いや願いを大切に、その感じ方の違いや共通点を互いに認め合い、楽しみながら生き生きと学習できる指導方法と評価を工夫していくことが大切です。

2 指導方法の工夫

音楽の授業は、子供が各自の良さや可能性を発揮しながら様々な音楽に働きかけ、友達とともに音楽の喜びや楽しさを味わう時と場です。

そこで、音楽の楽しさを実感しながら生き生きと活動を進めることができるような指導方法の工夫が必要になってきます。

教材そのものには、素晴らしい教育力があります。その教材を歌うことで声がよく響く曲、詩の内容等が子供たちの心情とマッチしイメージを膨らませやすい曲、友達との協力で美しいハーモニーの経験ができる曲々です。実際に例を挙げて説明したいと思います。

(1) 「鐘がなる」を取り上げた実践例

題材の目標に照らし合わせて、上の曲を次のように料理することができます。

① ハーモニーの楽しさを味わう

合唱の導入として輪唱を行うことはとても有効な手だてです。フレーズごとに追いかけて音を重ねていき、その途中で教師の指示でフェルマータ（その音を長くのばす）をかけてハーモニーを味わいます。いつフェルマータがかかるか子供はじっと教師を見ていなくては分かりません。そのときの緊張感が楽しい雰囲気を作り出します。初

めは声でなく楽器を使ったら効果的です。

② オスティナートでアンサンブルを楽しむ

オスティナートとは、ある旋律やリズムを繰り返して演奏することです。同型反復とも言います。4フレーズ目を鍵盤ハーモニカ等で繰り返し演奏します。それによって主旋律を演奏します。すると低音部と主旋律の簡単なアンサンブルができあがります。ここでは楽器に苦手意識を持っている子供にオスティナート奏をまかせます。音楽全体を支える低音部で、しかもテンポを保ちながら演奏していくということで、アンサンブルをする充実感が得られると思います。

③ 強弱の変化を楽しむ

この曲は、ハ長調からハ短調に転調（ミとラを半音下げる。）して演奏すると、マーラーの「巨人」に似た旋律になります。上述のオスティナートに合わせて（大太鼓をいれれば雰囲気が出ます。）オーケストラ遊びをしてみるのも楽しいものです。また、「遠くからだんだん巨人が歩いてやってくるよ。」等の教師の言葉かけでだんだん音を大きくしていきます。ただ単に「音を大きくして、小さくして」でなく巨人が近づいてきたり遠ざかっていったりしていく様子を強弱をつけて楽しみます。教師の楽しい言葉かけひとつで子供たちは嬉々として強弱を楽しんでいきます。

④ つくって表現する

4フレーズ目でいろいろな鐘の音をつくらせるのも楽しいものです。大きな鐘をイメージした子供は「ゴーン、ゴーン」と、また、鈴のような鐘をイメージした子供は、かわいらしく表現するかもしれません。そんなイメージに合わせて、身体表現したり手作り楽器でそのフレーズを演奏したりするの面白いと思います。

他に旋律のイメージができ、歌えるようになったとき階名唱をさせるのも有効です。そのことを繰り返すことで、音楽的感覚をのばしていくことができるからです。

題材の目標が明確になったら、子供たちが楽しく学んでいる姿を思い浮かべながら上述のような教材研究をしていくことで、音楽的な成長が期待できると思います。

3 指導と一体となった評価

(1) 題材における評価計画の手順

評価は指導の終着点で行うだけのものではなく学習過程のあらゆるところで行っていきます。

そして、一人一人を共感的に理解し、学習状況を的確に把握し、個に応じた評価を進めていくことが、子供たちの学習意欲の向上につながり、その後の学習指導の改善に生きてきます。

音楽科では、次のような観点で子供たちの学習状況を評価していきます。

評価の観点	観 点 の 主 旨
音楽への関心・意欲・態度	音楽に親しみ、音楽を進んで表現し、鑑賞しようとする。
音楽的な感受や表現の工夫	音楽のよさや美しさを感じ取り、創意工夫を生かした表現をしている。
表現の技能	音楽を表現するための基礎的な技能を身に付けている。
鑑賞の能力	音楽を楽しく聴取、鑑賞し、そのよさや美しさを味わう。

題材の目標が明確になったら、上述の観点別学習状況に照らし合わせて評価基準を設定します。下記は評価計画の手順を示した例です。

題材の評価計画

- ① 題材『和声の響きを感じて』
- ② 目標
 - ア 友達と協力して、和声美に支えられた合唱や合奏をつくりだすことができるようにする。
 - イ 様々な合唱形態の表現を鑑賞し、その響き合いの特徴や美しさを味わうことができるようにする。
- ③ 評価の規準
 - ア 和声の響きを友達と協力してつくりだし、進んで表現したり鑑賞したりしようとしている。 (観点①)
 - イ 和声の響きをつくりだし、曲想にふさわしい表現の工夫をしている。 (観点②)
 - ウ 歌い方や奏法に気を付けて、美しい響きを目指した表現をしている。 (観点③)
 - エ 様々な合唱形態の響きや、友達の発表を聴いてその良いところを感じ取り、自分の表現に生かしている。 (観点④)
- ④ 各学習場面での評価項目
 - (a) 友達と協力して、合唱の響きをつくりだそうとしている。 (規準ア)
 - (b) 自ら課題を持って、進んでリコーダーの練習に取り組んでいる。 (規準ア)
 - (c) 友達と協力してリコーダーで美しい響きをつくりだそうとしている。 (規準ア)
 - (d) 曲想にふさわしい強弱の工夫をしている。 (規準イ)
 - (e) 音楽材の音色を生かして演奏したり即興的に表現したりしている。 (規準イ)
 - (f) 曲想を生かし、明るく響き合う声で歌唱ができるようになる。 (規準ウ)
 - (g) 各声部のバランス・とけ合う声づくりをしている。 (規準ウ)
 - (h) 和音の響きを友達と協力してつくりだしている。 (規準ウ)
 - (i) 友達の表現のよさを感じ取ろうとしながら聴いている。 (規準エ)
 - (j) 様々な形態の合唱表現を比べて、その響きの美しさを味わっている。 (規準エ)
 - (k) 滝廉太郎の歌曲を味わい情景を想像しながら鑑賞している。 (規準エ)

単位時間の適切な場面、可能な範囲で評価項目を設定します。そのときの評価の方法として次のようなものがあります。

- ◆ 観察による方法
- ◆ 学習カードによる方法
- ◆ 演奏発表や作品発表による方法
- ◆ 対話・会話による方法
- ◆ 感想文や自由記述による方法
- ◆ 実技検査や質問紙による方法 その他

(2) 個に応じた歌唱指導と評価の例

評価の方法を挙げましたが、具体的に個に応じた評価について述べてみたいと思います。

歌唱指導を進めるとき、子供一人一人が、思いや願いを自分の気持ちに合うように表現し、その美しさ、楽しさを味わうことができるよう指導を進めることが必要です。そのためには、自分の声をコントロールできるように発声や発音の仕方を楽しみながら学習の中で身に付けていくことができるようにしていきます。

クラスの中では、時々音程がとれない等で自信を持てず思い切った表現ができない子供がみられます。うまく歌えない原因は一人一人違います。そこで、次のような観点で評価をしてみてもいいでしょうか。

- ・ 友達と大勢で歌うときは正しく歌えるが、独唱になると音程がはずれやすくなる。
- ・ 正しいリズム・音程で歌えるが時々上ずったり、下がったりする。
- ・ 自分の好きな高さ（調）では、正しく歌えるが、ピアノなどと合わせて歌うと音程が悪くなる。
- ・ 声がかれていたり、変声をむかえていたりして音域が狭くなっている。 その他

まだまだありますが、このように一人一人を見つめながら評価をしていくことで、個に応じた指導が見えてくると考えます。例えば「音域を下げて歌うことができるようにする。」「音程が上ずったり、下がったりしないように呼吸の仕方を知らせる。」「音の高さをイメージできるように身体表現を取り入れる。」等があります。一人一人の学習状況を的確につかみ、勇気付けながら指導を進めることが大切だと考えます。また、複数の目で温かく子供の成長をみていくチーム・ティーチングによる協力的な指導も有効になってきます。

4 おわりに

音楽科の学習活動は、子供たちが自分の課題を持って自ら進んでつくりあげていくものです。そして、子供一人一人が生涯にわたって音楽を心のよりどころにし、豊かな生活が送れることを願いつつ指導を進めていくことが大切だと考えます。

生徒の興味・関心を喚起し、 探究活動につながる理科教材

所員本告正澄



生徒の「理科離れ現象」が理科教育の大きな課題となっています。その原因や解決策について、さまざまな方法が提唱・実施されてきましたが、成果として確認できる報告は少ないため、ここでは、発想の基点を変え、「生徒の興味・関心を喚起し、探究活動につながる教材」について考察します。

1 教材開発の視点

ヒトが他の動物と異なる特徴の一つに、知識欲を有することが挙げられます。そこで、生徒がもつ「知りたい」欲求を刺激し充足させることによって、興味・関心を喚起し、教科指導の効果を高めることが可能と考えられます。

指導の実践に当たっては、多様な資質を有する生徒のそれぞれに応じた教材が必要となりますが、生徒個々に別教材を準備するのは、時間的なものを含めて困難が伴います。そこで、実践可能な方法として、能力の発達段階に応じ生徒自身が選択できる教材について検討しました。

2 教材・教具の選定

情報処理能力の育成が強く求められており、また、生徒の興味・関心も高いことから、コンピュータを活用し、各種データから得られる情報を分析・処理する教材を例にとります。

3 教材例

生活に密着したデータとして、気象データが挙げられます。これは、環境教育への展開も可能なデータですが、身近過ぎるためか、その処理・分析方法は意外と知られておらず、観測結果から得られる情報は見過ごされがちです。そこで、過去100年の佐賀の年平均気温を例にとり、その見方を考察します。なお、データのグラフ化に当たっては、表計算ソフトのグラフ機能を利用しており、コンピュータリテラシーについては問題とする必要はないと思われます。

図1は、5区間(5年間)移動平均)による

グラフです。これは、特異な変化がデータに与える影響を緩和する分析方法で、平均気温等の分析に利用されています。これを見ると、1891年から1950年頃までの年平均気温は15.5℃前後で推移していますが、その後急激に上昇に転じており、約40年間に0.8℃程度上昇しています。

その要因を推察すると、石炭・石油などの化石燃料の世界的な大量消費、二酸化炭素やフロンガスなどによる温室効果、人口の都市集中等が挙げられます。

次に、ここ50年間の温度上昇が今後も続くと想定した場合、大陸氷河の融解に起因する海水面上昇が起こり、低地(平野部)に集中している生活区域や食料生産区域が減少することによって、人類の存亡にかかわる事態が生じることが予想でき、環境教育の格好の材料ともなります。

このように、各種データを正しく分析することにより、多様な情報が発見できます。ものの見方・考え方は生徒個々により異なるため、発表・討議の機会を導入すれば、発達段階や個性に応じた学習活動が展開できます。このことは、自己啓発のきっかけを与え創造性の育成につながり、「できた」「わかった」という感激を与えることで探究活動にもつながると思います。なお、図2(線形近似法)は、このデータの分析には不適です。図1の分析結果と比較することにより、正しい分析方法の知識がいかに重要であるかが再確認できます。

図3は、県教育センターにおける総合気象観測データ(平成8年1月)です。データのみ気象月報から、各気象要素の相関関係や特徴を読みとることは困難です。このため、例として、気温・地中温度(3点)をグラフ化しました。グラフから読みとれることとして、気温の変化が地中温度に与える影響が小さいことや、気温が変化して1日程度経過した後、地中温度がわずかに変化することなどがあります。このことを発展させると、地中生物の生息環境や生態まで含めた探究活動も可能となると考えます。

図1 佐賀の年平均気温推移(5年間移動平均による分析)

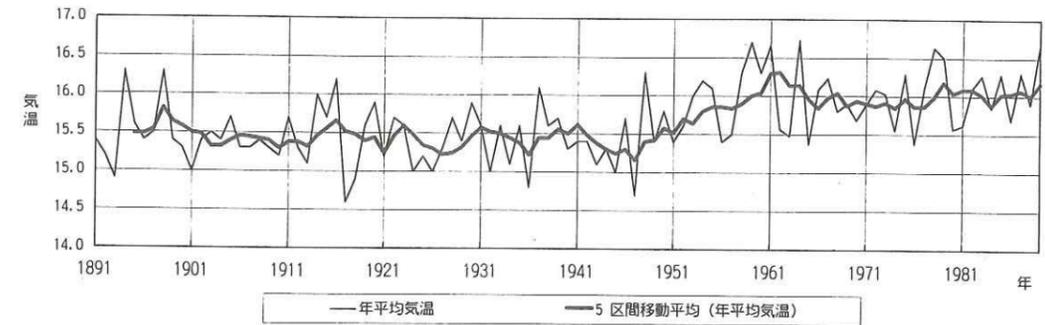


図2 佐賀の年平均気温推移(線形近似法による分析)

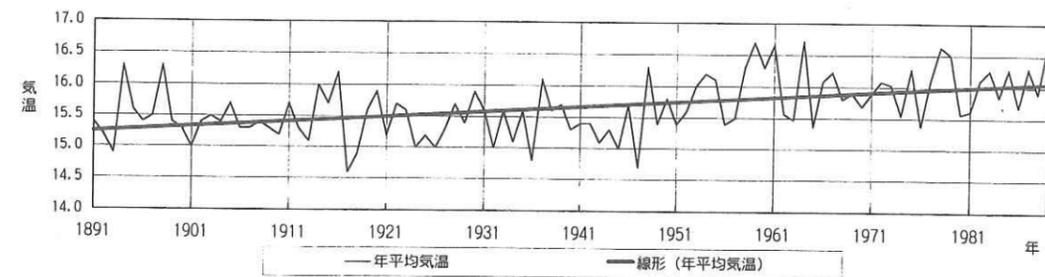


図3 気象月報(平成8年1月)

1996/1 気象月報 <観測地> 佐賀県教育センター(佐賀県佐賀郡大和町)

日	気温(℃)			気圧(hPa)			湿度(%)			風速(m/s)			風向	雨量(mm)	地温(℃)		
	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低			最多	-3m	-1m
01	4.2	10.3	-0.4	1022	1025	1020	90.9	###	77.1	2.7	7.3	0.0	NNW	0.0	8.3	12.0	16.5
02	4.2	11.0	-0.6	1023	1026	1021	91.3	97.4	81.2	3.3	7.3	0.0	NNW	0.0	8.2	11.9	16.5
03	6.0	11.4	2.2	1021	1025	1018	88.8	99.8	77.9	2.4	11.2	0.0	NW	0.0	8.1	11.8	16.4
04	1.8	8.2	-2.6	1026	1028	1025	90.7	99.0	81.4	2.2	7.5	0.0	NNW	0.0	8.2	11.7	16.3
05	3.8	11.7	-1.4	1025	1027	1023	92.5	97.4	83.0	3.7	8.2	0.0	NNW	0.0	8.0	11.6	16.2
06	6.5	9.3	2.5	1026	1028	1024	95.8	98.6	93.3	3.5	8.3	0.0	NNW	0.0	8.0	11.5	16.1
07	9.2	15.0	3.3	1026	1029	1021	94.4	###	84.5	1.7	7.8	0.0	NNW	4.0	8.1	11.4	16.0
08	4.9	11.0	-0.5	1022	1026	1017	92.1	98.7	84.2	2.4	11.2	0.0	WNW	3.0	8.5	11.3	16.0
09	0.0	4.1	-2.7	1026	1028	1025	90.1	###	61.0	1.4	7.3	0.0	WNW	0.0	8.6	11.3	15.9
10	2.2	7.4	-2.4	1023	1025	940	86.5	###	67.1	1.6	7.2	0.0	NNW	7.4	8.1	11.1	15.6
11	3.2	10.1	-1.1	1027	1030	1025	82.7	92.1	67.6	3.9	8.4	0.0	NNW	0.0	7.9	11.2	15.7
12	4.7	11.7	-0.7	1032	1035	1030	80.7	90.0	68.4	3.6	9.1	0.0	NNW	0.0	7.7	11.1	15.7
13	6.2	11.9	0.2	1031	1034	1027	81.2	90.5	70.2	3.3	7.8	0.0	NNW	0.0	7.7	11.0	15.6
14	9.6	12.2	6.1	1023	1028	1020	94.4	98.0	83.4	1.7	7.0	0.0	NNW	7.1	7.8	10.9	15.5
15	2.3	5.4	-1.9	1028	1031	1024	84.1	93.9	76.4	2.9	12.7	0.0	NNW	0.0	7.5	10.3	14.6
16	1.2	6.4	-3.1	1029	1032	1027	89.1	###	76.5	1.8	7.9	0.0	NNW	0.0	7.3	10.2	14.5
平均	4.3	9.3	0.1	1024	1027	1019	88.7	96.8	77.0	2.5	8.2	0.0	NNW	1.4	8.1	11.0	15.4
最高	11.3	15.0	8.4	1032	1035	1030	95.8	###	93.3	3.9	12.7	0.0		18.0	8.8	12.0	16.5
最低	0.0	4.1	-3.1	1018	1022	940	80.7	90.0	61.0	1.3	6.0	0.0		0.0	7.3	10.2	14.5

平成8年度 佐賀県教育センターの機構と担当者

課・係・職名	氏名	分掌	事務
所長	江頭賢藏	所 総 括	
次長	副島利彦	所長補佐	
課長	古賀紀昭	課 総 括	
総務係	庶務主査	(本務 総務課長)	
	主事	庶務 給与等	
教科係	主任	予 算 財産等	
	主事	会 計 事務費	
	主任	課総括 研修企画推進	
	研究員	係総括 国語(高) 短期研修 研修企画推進	
	指導主事	国語(中) 研修企画推進・連絡調整	
	研修員	英語(高) 研修企画推進	
	"	図画工作(小) 美術(中・高) 短期研修 教育講演会	
	"	英語(中) 短期研修	
	"	国語(小) 短期研修	
	"	国語(小) 研修企画推進	
理科教育係	主任	生活(小) 短期研修	
	研究員	技術・家庭(中) 研究協力校 断続研修	
	"	音楽(小・中・高) 研修企画推進	
	指導主事	係総括 物理(高) 長期研修	
	研修員	生物(高) 長期研修	
	"	化学(高) 長期研修	
	"	理科(小) 九教連・全教連	
	"	地学(高) 所員研修	
	"	理科(小) 九教連・全教連	
	"	理科(中) 全理セ	
教育経営係	主任	(本務 次長)	
	指導主事	係総括 学校経営 研究調査 初任研	
	研修員	学校教育課連絡調整	
	"	初任研 特別活動(中) 生徒指導	
	"	初任研	
	"	初任研 研究発表会 学級経営	
	"	特別活動(小) 教育研究論文 へき地・複式	
	"	道徳(小・中) 全教連研究 研究調査	
	"	初任研	
	"	指導と評価 研究委員会・研究紀要	
指導相談係	主任	係総括 教育相談 特殊教育 適応指導教室 生徒指導	
	研究員	教育相談(高)	
	研修員	教育相談(小) 生徒指導	
	"	特殊教育	
	"	教育相談(小)	
	"	適応指導教室	
	"	教育相談(中) 生徒指導	
	"	適応指導教室	
	"	特殊教育	
	"	特殊教育	
情報教育係	主任	適応指導教室	
	研究員	適応指導教室	
	研修員	適応指導教室	
	主任	課総括 増改築基本構想	
	研究員	係総括 工業(高) 情報処理教育 FMS 増改築基本構想	
	研修員	農業(高) 生徒実習	
	"	商業(高) 電算機システム管理	
	"	家庭(小・中・高) 増改築基本構想	
	"	工業(高) FMS管理	
	主任	係総括 CAI 教育情報システム	
情報システム係	研究員	CAI(高) 情報システム運営協議会 ワークショップ	
	指導主事	教育学 教育機器管理	
	研修員	CAI(中) パソコン体験講習会	
	"	CAI(小) ソフトウェアライブラリセンター 広報	
	"	CAI(高) 情報システム機器管理	
	"	CAI(高) インターネット データベース	
	主任	係総括 地歴・公民(高) 増改築基本構想	
	研究員	数学(中) 増改築基本構想 図書分類	
	指導主事	数学(高) 研究紀要分類 情報データベース	
	研修員	算数(小) 所報 教科書センター	
"	社会(小) 図書購入選定 教育情報収集		
"	社会(中) 研修援助 歴史的資料調査		

平成8年度

第17回佐賀県教育センター研究発表会

第17回佐賀県教育センター研究発表会が5月17日(金)県内の小・中学校、高等学校、特殊教育諸学校の教師や教育関係者、約200名が参加して開催されました。

午前中の全体発表会では、「児童生徒の興味・関心と問題解決への意欲に関する調査研究」という研究主題で、まず直島信明前所員が研究の概要及び興味・関心と意欲との関連について発表を行いました。続いて興味・関心の特徴と指導の工夫への提言を安永伴吾前所員が、問題解決への意欲に関する感受性や自主性などのまとめを吉村清美所員がそれぞれ発表しました。

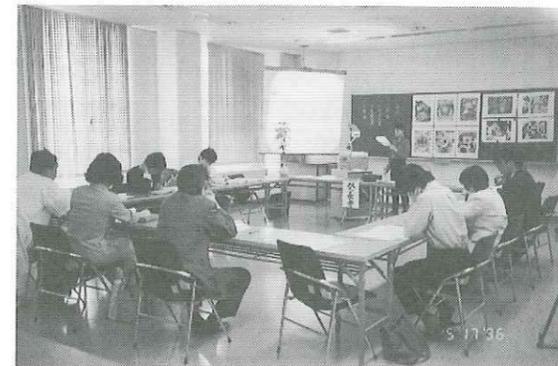
昼休みには、コンピュータ教育用のソフトウェアを集めた「教育用ソフトウェアライブラリセンター」の紹介がパソコン棟で行われました。

午後からは、各教科・領域別に28の分科会が開かれ、「個を生かす教育」「社会の変化に対応する教育」という2つのテーマのもと、チーム・ティーチングの指導法、観点別評価の研究などについての発表と活発な協議が行われました。

なお、平成7年度教育実践・教育研究論文の入選者は、下記のとおりです。



《全体発表の様子》



《分科会の様子》



《平成7年度教育実践・教育研究論文入選者》

- 上段左から
- | | | |
|-------------|----|-------|
| 白石町立白石小学校 | 教諭 | 吉田 修 |
| 伊万里市立滝野小学校 | 教諭 | 山下 司 |
| 佐賀県立鹿島高等学校 | 教諭 | 小林 一敏 |
| 富士町立北山東部小学校 | 教諭 | 高添 末広 |
| 基山町立若基小学校 | 教諭 | 成富 藤典 |
| 相知町立田頭小学校 | 教諭 | 片淵 正博 |
| 唐津市立佐志小学校 | 教諭 | 山下 定則 |

- 下段左から
- | | | |
|-------------|------|-------|
| 神埼町立神崎中学校 | 養護教諭 | 貞島千加子 |
| 東脊振村立東脊振小学校 | 教諭 | 田中 雅代 |
| 西有田町立西有田中学校 | 教諭 | 井手 典子 |
| 鹿島市立鹿島小学校 | 教諭 | 岡 知子 |
| 鹿島市立鹿島小学校 | 教諭 | 橋口 裕子 |

- 鹿島市立北鹿島小学校 教諭 蕪尻千佳子

短期研修講座の紹介

本年度の短期研修講座は学習指導要領の基本方針である「心豊かな人間の育成」「基礎・基本の重視と個性を生かす教育の充実」「自己教育力の育成」「文化と伝統の尊重と国際理解の推進」の四つの大きな柱に基づいた専門別の講座と、新しく取り入れた職務等に応じた基本研修を設定しました。全研修講座数は107本で、小学校、中学校、高等学校、特殊教育諸学校教職員を対象として実施しています。本年度は下記のとおり社会の変化や今日的教育課題に対応して専門別研修37本と基本研修17本を新たに設定しました。

心豊かな人間の育成

- A 豊かな感性を育む指導
- B 自主的・自立的に生きる力を育てる指導
- C 一人一人の児童生徒を大切に教育相談・特殊教育

自己教育力の育成

- G 自ら学ぶ意欲を育てる指導と評価
- H 体験的・問題解決的な学習の指導
- I 現代社会に対応する情報教育

講座番号	講座名	期 日
A 1351	小学校音楽科(少い授業より基礎)	6/24(月)、25(火)
A 1561	美術科実技	6/18(火)、19(水)
A 1302	小学校音楽科(教材研究と指導方法)	8/22(木)、8/23(金)
B 3131	小学校学級経営	6/27(木)、7/9(火)
B 1742	高等学校家庭科(指導方法)	9/26(木)、27(金)
B 4843	生徒指導(いじめ問題)	11/6(水)、11/11(月)
C 4821	軽度障害児の教育	6/26(水)、27(木)、8/7(水)
C 4861	教育相談基礎	6/26(水)、7/4(木)、5(金)
C 4941	中学校・高等学校登校拒否の理解と援助	6/13(木)、6/24(月)
C 4812	重度障害児の教育	8/9(金)、9/24(火)、25(水)
C 4872	教育相談専門	8/6(火)、22(木)、23(金)
C 4902	教育相談体験学習(感受性訓練)	8/7(水)、8(木)、9(金)
C 4932	小学校登校拒否の理解と援助	9/27(金)、10/7(月)

講座番号	講座名	期 日
G 1111	小学校国語科(授業研究)	6/14(金)、6/27(木)
G 1821	小学校・中学校図書館教育	5/23(木)、28(火)
G 2122	小学校理科(教材研究と授業)	8/28(水)、10/15(火)
G 3872	指導と評価	8/22(木)、10/8(火)
H 2111	小学校理科(楽しい観察実験と安全指導)	6/11(火)、11/1(金)
H 2151	小学校・中学校理科(野外観察)	5/30(木)
H 1102	中学校・高等学校国語科(ディベート演習)	8/5(月)
H 1122	小学校国語科(聞く・話す)	8/5(月)、22(木)
H 1312	小学校生活科(体験的学習指導)	7/24(水)、25(木)
H 2432	中学校理科(第2分野の観察、実験)	8/28(水)、29(木)
I 1531	中学校技術・家庭科(技術系一実技研修)	6/7(金)、8/22(木)、23(金)
I 5622	ファイル処理	8/22(木)、23(金)、26(月)
I 5632	ライトトレースロボットの製作	8/22(木)、23(金)、26(月)
I 5752	ビジュアルベーシック	7/30(火)、31(水)

基礎・基本の重視と個性を生かす教育の充実

- D 個に応じた指導方法の工夫改善
- E ティーム・ティーチングを取り入れた学習の指導

講座番号	講座名	期 日
D 1441	中学校社会科(指導方法)	6/11(火)、12(水)
D 1152	小学校国語科(教材開発)	7/22(月)、25(木)
D 1412	中学校国語科(教材研究と授業)	8/23(金)、10/8(火)
D 1133	小学校国語科(指導方法)	10/4(金)、8(火)
D 1493	中学校英語科(基礎-教材研究と授業)	10/2(水)、3(木)
D 1673	高等学校数学科(新教材・問題解決)	11/19(火)
E 1421	中学校国語科(指導方法)	6/20(木)、9/25(水)
E 1212	小学校算数科(応用-TTとパソコン活用)	8/27(火)、28(水)、10/4(金)
E 1612	高等学校国語科(現代文授業実践)	9/17(火)、9/25(水)

文化と伝統の尊重と国際理解の推進

- K 国際理解を深める指導

講座番号	講座名	期 日
K 1641	高等学校地理歴史科(地理)	6/10(月)、18(火)

職務等に応じた基本研修

研修番号	研修名	期 日
7171	小学校新任教務主任研修	5/28(火)、6/25(火)、6/26~7/100間1日、7/11(木)
7461	中学校進路指導研修(1班・2班・3班)	6/4(火)、8/2(金)
7471	中学校新任教務主任研修	5/28(火)、6/20(木)、6/26~7/100間1日、7/11(木)
7561	中学校生徒指導推進研修	6/10(月)
7611	高等学校進路指導研修(1班・2班)	6/4(火)、8/2(金)
7661	県立学校教務主任研修	6/4(火)
7671	県立学校新任教務主任研修	5/28(火)、6/4(火)、20(木)、7/5(金)、11(木)
7831	教頭研修	4/25(木)
7851	新任校長研修	4/22(月)、23(火)
7861	新任教頭・県立学校新任事務長研修	4/25(木)、5/9(木)、10(金)
7911	特殊教育新任担当教員研修	5/23(木)~11/15(金)@指定日(8回)
7152	小学校中堅教員研修	7/2(火)、23(火)
7442	中学校中堅教員研修	7/2(火)、3(水)
7622	高等学校中堅教員研修	7/2(火)、3(水)
7722	特殊教育諸学校寮母等研修	8/7(水)、9(金)、23(金)
7732	都道府県訪問教育担当教員研修	8/30(金)、9/24(火)、25(水)
7643	県立学校事務長研修	10/23(水)、24(木)

「個を生かす教育」「社会の変化に対応する教育」を中心とした研究調査

～平成8年度研究テーマと研究委員の紹介～

No	研究部会名	研究テーマ	研究委員会	担当者	研究委員
I	ティーム・ティーチング	個を生かすティーム・ティーチングによる指導と評価	小学校音楽	石田 正紹	岡 真由美(鍋島小) 堤 和恵(多久東部小)
			中学校英語	三枝 出	高木 和之(国見中) 諸隈 直子(思齊中)
			高等学校国語	山田 裕章	松尾 茂昭(小城高) 馬場 信禎(鹿島高)
II	選択履修	生徒一人一人の特性に応じ、個性を伸ばす指導の研究	中学校数学	岡 哲也	馬場美津子(武雄中) 武富 幸就(鹿島東部中)
			中学校理科	内田 和一	陣内 弘文(佐賀大附中) 永原 吉弘(城南中)
			中学技術・家庭	福田 浩之	川久保博隆(大町中) 中尾 透(南波多中)
III	指導と評価	新しい学力観に基づく指導と評価	小学校算数	一木 徹也	稲富 博茂(福富小) 古賀 康弘(中原小)
			中学校国語	大石 浩城	富永 保(大浦中) 田中 泰博(唐津第一中)
			中学校美術	杉町 徹	下村 哲也(鍋島中) 古川 敦秀(南波多中)
			高等学校数学	矢ヶ部清人	横尾 博見(佐賀北高) 岩崎 良子(伊万里商高)
IV	教材開発	個性を生かし探究心を育む教材の工夫と開発	高等学校物理	東嶋 徹	森永 宗男(高志館高) 久保山文典(佐賀商高)
			高等学校化学	嘉村 敦	時貞 充尚(武雄高) 山口 明德(唐津北高)
			高等学校生物	坂本 兼吾	上赤 真澄(鳥栖高) 中島 誠吾(致遠館高)
			高等学校地学	本告 正澄	内山 隆文(佐賀西高) 林 嘉英(鳥栖高)
V	教育相談	一人一人の児童生徒を生かす教育相談の研究	教育相談	小山 正己 平山 峰幸 永田 由美 田中 安子	梅山ひさの(久里小) 光岡 敏子(晴田小) 森山 洋一(城東中) 原口 元茂(大和養護)
			学校適応指導	黒木 龍彦 江崎 邦弘	光武 充雄(巨勢小) 徳安サナエ(千代田中)
VI	特殊教育	通常の学級に在籍する軽度障害児を生かす指導内容・方法の研究	特殊教育	山口 俊 園田 泰洋 天野 浩之	峰松 洋子(嬉野小) 日野久美子(鳥栖小) 石井 弘枝(勸奨小)
VII	国際化に対応する教育	国際的視野に立ち、自分の考えを豊かに表現し行動できる生徒の育成	中学校社会 高校地歴・公民 高等学校英語	笹山 清彦 池田 涉 福田 史朗	小嶋 貴之(波多津中) 光武 正夫(切木中) 田中 弘幸(鹿島高) 記伊 善弘(太良高) 堺 三起夫(小城高) 山口るみ子(鹿島実高)
VIII	情報化に対応する教育	教育情報システムの利用推進に関する研究	ネットワーク利用1	宮山 建 大島 正豊	福田 義邦(山内西小) 峰松藤一郎(佐賀商高)
			ネットワーク利用2	初井 宏文 杉山 茂	樋口 和美(本庄小) 野北 弘(大和中)
			グループウェア	山下 利秀 西山 寿延	川崎 健二(有明中) 古川 美樹(武雄北中)
			情報システム利用	原 秀勝 宮山 建	堀田 健一(多久工高) 岸川 公紀(鳥栖商高)
IX	環境に関する教育	自ら環境にかかわっていく児童を育てる学習指導方法の研究	小学校社会	平田 陽介	石田 俊二(佐賀大附中) 原口 弘之(本庄小)
X	クロス・カリキュラム	クロス・カリキュラムによるひらかれた学習の在り方	小学校生活	福井 健二	高橋 幸信(西唐津小) 西川 記世(仁比山小)
			小学校国語	峰 茂樹 釘本 浩	樋口 順子(若楠小) 池田 直人(吉田小)
			小学校理科	千住由一朗 江頭 一寛	牧瀬 浩(兵庫小) 花田 譲司(大浦小)
			小学校特別活動	山下 司 吉村 清美	栗田 幸子(大川小) 小田部和子(伊万里小)
XI	生徒指導	生徒指導方法の改善に関する調査研究	生徒指導	福山 康登 馬場 知之 永田 由美 御厨 秀樹 平山 峰幸 柴田 昌範 吉野 憲治	石丸 哲郎(牛津高) 畦山 信行(唐津工高) 水田隆由紀(鳥栖中) 白水 信義(城東中) 中島 安行(西唐津小) 浦 民雄(若木小)
XII	産業教育	産業社会と教育の関わりについての研究	高等学校工業	島本 克己	野崎 良二(唐津工高) 剣菱 裕(佐賀工高)
			高等学校農業	岩瀬信太郎	大坪 正幸(高志館高) 石橋 誠(佐賀農業高)

学習障害（LD）児の指導について

研修二課 指導相談係

学習上、行動上つまづきのある子供たち

言葉の使い方が幼稚で文法的な間違いが目立つ、手先が特に不器用で運動が苦手、落ちつきがない、みんなと遊べず、友達とのトラブルが多いといったような、特定の学習や行動上の問題を示す子供がどの学級にも数人はいるのではないのでしょうか。

この中には学習障害によるものも含まれていると思われま

す。現在、学習障害を含め、学習上、生活上で様々なつまづきのある子供一人一人に応じた配慮や指導が強く求められています。

こういった子供たちの教育の現状は一部には通級指導教室を利用したり、特殊学級や養護学校を利用しているケースもあると思われま

すが、大多数の子供たちは通常の学級で指導を受けている状況です。現段階においては、TTによる細やかな個別の配慮を含め、学習上、行動上様々なつまづきのある子供一人一人が生き生きと学習し生活できる環境や支援体制づくりを目指して教師、学校の一層の努力が望まれています。

学習障害児とは

学習障害とは認知に関係する発達に軽い遅れや偏りのある状態を指し、知的な発達に一般的な遅れはなく、多くのことは他の子供たちと同じようにできるのに、ある特定の能力の習得や使用について困難な状態を指します。

このような困難な状態は「聞く」など一つのことだけに著しく現れることもあれば、「聞く、計算する」など、複数のことに著しく現れる場合もあります。

(詳しくは、本文末に学習障害の定義を載せておりますので参考にしてください。)

こういった学習障害のある子供には、個々に応じた特別な援助や配慮が大切となります。

学習障害児の指導ポイント

○ 子供の細かな実態をつかむ

適切な援助や配慮を考えるには個人内の諸能力を分析し、評価できる(例えば、WISC-R知能検査やITPA言語学習能力診断検査などのような)個別的心理検査等を実施することが必要になります。これは学習障害が全般的な発達

の遅れなどと異なり、部分的な能力の偏りを示すからです。一人一人異なる、その部分的な偏りの状態をつかむことがまず指導の出発点となるはず

です。学習上、行動上つまづきが何の能力の弱さにより生じているのかを知ることが、具体的な援助や配慮方法を導く際の大きな手がかりとなるのです。

例えば、文を読むときに行をとばして読んだり、文字を書くのが苦手な子がいたとします。この子の個別検査の結果から、空間の認知や物の位置関係を認識する力に弱さを持っているということが予測されたら、読み間違えやすいところに印を付けるなどして子供が着目しやすくしたり、字の始点と終点の位置を確認してから書くように促す、視知覚の訓練を個別に宿題として取り組ませるなどの具体的な配慮点や指導を考

えることができます。また、好きなこと得意なところをいかに利用して配慮や指導を行っていくかという考え方は、具体的な指導を考える際の大きなポイントとなります。

○ 温かい目で見守り支援する

周囲のちょっとしたことに気を取られやすく、集中しにくい状況の改善のために、落ち着いた学習の雰囲気づくりや座席の位置を配慮するなど学習環境を整える必要があります。

心理的に安定して生活や学習に取り組めるように周囲の理解を図り、学級経営での配慮を行うことが必要になります。

失敗経験の積み重ねや周囲から理解されにくい状況は、子供のやる気を失わせたり、情緒不安定にさせたりしています。そこで、子供のできる課題から始め、成就感を持たせ自信をつけさせる必要があります。

また、情緒が不安定になる原因として時間の観念がつかみにくい傾向なども考えられます。1日の予定を知らせたり、学習や行動の手順や方法を具体的にわかりやすく示してやることも必要となります。

規則や決まりなど、人との関係の理解が苦手であるなどの特徴は、周囲の友達とうまく関われない状況を生じやすくしています。

従来から言われていることでもあります。子供のよさを認め一人一人の子供を大切に、子供同士が温かく相手のよさや成長を認め合えるような学級づくりを一層心がけていくことが基本となると思います。

学習障害の定義

学習障害とは、基本的には、全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する、推論するなどの特定の能力の習得と使用に著しい困難を示す、様々な障害を指すものである。

学習障害は、その背景として、中枢神経系に何らかの機能障害があると推定されるが、その障害に起因する学習上の特異な困難は、主として学齢期に顕在化するが、学齢期を過ぎるまで明らかにならないこともある。

学習障害は、視覚障害、聴覚障害、精神薄弱、情緒障害などの状態や、家庭、学校、地域社会などの環境的な要因が直接の原因となるものではないが、そうした状況や要因とともに生じる可能性はある。また、行動の自己調整、対人関係などにおける問題が学習障害に伴う形で現れることもある。

(文部省に設置された調査研究協力者会議の中間報告より)

平成8年度教育論文募集

佐賀県教育委員会と佐賀県教育センターでは、今年度も教育論文の募集を行います。応募資格は県内公立の幼稚園、小学校、中学校、県立学校に在職する教職員ならびにそのグループとなっています。応募論文のテーマは自由ですが、内容は学校教育に関するものとし、その領域は次のとおりです。

- ・各教科
- ・道徳
- ・特別活動
- ・生徒指導
- ・進路指導
- ・教育相談
- ・学校経営
- ・学年経営
- ・学級経営
- ・保健安全
- ・教育評価
- ・教育工学
- ・同和教育
- ・環境教育
- ・産業教育
- ・情報教育
- ・特殊教育
- ・性教育
- ・へき地教育
- ・国際理解教育
- ・教具開発
- ・パソコンソフト開発 等

応募期間は平成8年10月15日(火)～10月23日(水)。原則として未発表のものに限ります。優秀論文については表彰し、発表の機会を提供します。その他、詳しいことについては「平成8年度佐賀県教育センター教育論文募集実施要領」を参照されるか、または、佐賀県教育センター「教育論文募集」係まで問い合わせください。

佐賀県教育用ソフトウェアライブラリセンターの紹介

【目的】

社会の情報化に対応した教育を行うために、佐賀県でもすでに多くの学校でコンピュータを利用した教育が始まっています。

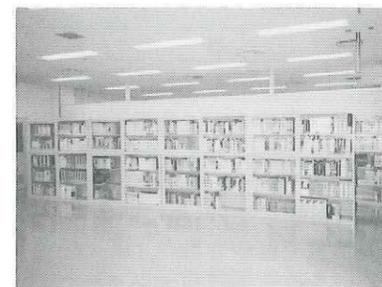
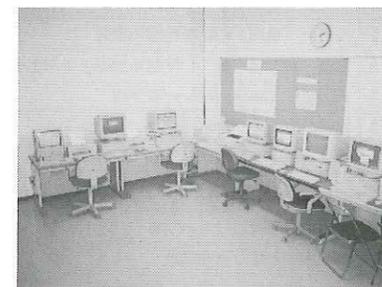
佐賀県教育用ソフトウェアライブラリセンターは、現在流通している優秀な教育用ソフトウェアを収集するとともに、教育用ソフトウェアにかかわる様々な情報を収集し、先生方の授業に役立つソフト選びをお手伝いします。

【サービス】

ライブラリセンターでは、次のようなサービスを受けられます。

- ① 目的に合ったソフトを検索できます。
- ② いろいろなソフトを実際に試用することができます。
- ③ 活用事例等を収集することができます。
- ④ 各学校のパソコンから「EDU-QUAKEさが」を利用して、ソフトを検索できます。
- ⑤ パソコン通信やインターネットを利用して、センターにない情報も収集できます。

- 《利用時間》 月曜日～金曜日 9:00～17:00
(パソコン通信の方は24時間アクセスできます)
- 《場所》 佐賀県教育センターパソコン棟1階
- 《利用者》 佐賀県内の教育関係者
- 《所有ソフト》 1594種類



平成8年度(前期) 長期研修生紹介



氏名	所属校	研修領域	研究主題
緒方秀樹	佐賀東高等学校	国語科	国際社会における日本人としての自覚を高める国語科学習指導 — 比較文学的手法による文学作品の指導法研究 —
浅野貴士	武雄高等学校	地理歴史科	自ら学ぶ意欲を育てる世界史学習指導の研究 — 生活意識を基本にすえた中世都市の授業を通して —
古川哲郎	佐賀北高等学校	数学科	数学における基礎・基本の定着をめざす個に応じた指導方法の研究 — 理系クラスにおける数学A「数列」の指導を通して —
田雑 勲	伊万里商業高等学校	英語科	表現のプロセスに焦点を当てた効果的な英語指導方法の研究 — オーラル・コミュニケーションAの指導を通して —
藤井鹿男	鹿島実業高等学校	情報処	興味・関心を持って意欲的に取り組むプログラミング学習の研究 — 「情報処理」科目におけるVISUAL・BASIC実習教材の作成を通して —

図書資料室ガイド

購入図書のご案内

教育センターが購入しました図書の一部を紹介します。今回は300冊以上の図書を購入しました。貸し出しもっておりますのでご利用ください。

各 教 科		
	書 籍 名	著 者
1	新訂書く機会を広げる短作文の指導1年～6年	藤原 宏
2	公民科「倫理」の指導内容の展開	都倫研
3	算数・数学科 新しい問題の開発とその指導	片桐重男
4	例題で学ぶMathematica/数学編	白石修二
5	最新科学論シリーズ 1～24	学研
6	新版 地学教育講座 1～16	地学団体研究会
7	Seeing is Writing英文ライティングの新しい技法	藤枝宏壽
8	新しい造形遊び 1巻～5巻	佐藤 諒
9	小・中のできる食物実験	河村フジ子
10	生徒の自学能力を高める技術科教育	安東茂樹

特 別 活 動		
	書 籍 名	著 者
1	新しい児童会活動・クラブ活動の指導事例	成田國英
2	自己教育力を育てる小学校の学級経営	高階玲治
3	学級生活問題の議題化小学校低学年・中学年・高学年	宇留田敬一

《お知らせ》

学校で作成された「研究紀要」「研究のまとめ」を佐賀県教育センターへお送り下さい。本センター図書資料室に保管して、活用させていただきます。

教育相談・特殊教育		
	書 籍 名	著 者
1	運動に遅れのある子どもの治療プログラム	M.J.ハンソン
2	目で見る障害児医学	高木俊一郎
3	新カウンセリングの技術	ロロ・メイ
4	臨床心理	野島一彦
5	家族関係の理論と診断	N.W.アッカーマン

情 報		
	書 籍 名	著 者
1	人工知能と新しい農業技術	システム農学会
2	初歩のデジタル回路①～④	宮本義博
3	マックで始めるインターネット	日経MAC
4	誰でも活用できるCAD/CAM活用の基礎テキスト	国友修一

そ の 他		
	書 籍 名	著 者
1	環境教育実践読本 No. 115	教育開発研究所
2	ティームティーチング成功のマニュアル	向山行雄
3	学習意欲の高め方 改訂版	辰野千寿
4	真の個性教育とは	梶田毅一
5	在り方生き方教育	横山利弘
6	自己教育力育成の実践事例集	北尾倫彦
7	身近な素材をどう教材化するか	岩内弘昌
8	観点別評価の手順	石田恒好 他
9	教室ディベート入門事例集	藤岡信勝
10	ディベートで教師の力量を高める	宮崎俊哉

発行 佐賀県教育センター

〒840-02 佐賀郡大和町大字川上字西山
TEL 0952-62-5211 FAX 0952-62-6404

<5-69>